

インフレと天気予報 その2

●株式の性質

株式とは、企業の成長性を買う切符です。

先ほど、「長期的にインフレ率を上回って成長している金融商品は、株式である」と言いましたが、やはり株式は危険なもの、というイメージがありますよね。実は、

株式自体は、ただの「紙切れ」なのです。

株式を買うということは、その「企業」を購入する、つまり所有するということです。

株式の値段である「株価」は、企業の価値を表す指標です。

ある企業が5年後、10年後も成長を続ければ、結果としてその企業の「株価」は上昇します。

また株式は、株式市場という「いちば」で毎日売買されますから、その値段は毎日変わります。(野菜とか魚と同じです)

そして株式は、(短期的には) 値動きが激しくなることがしばしばあります。

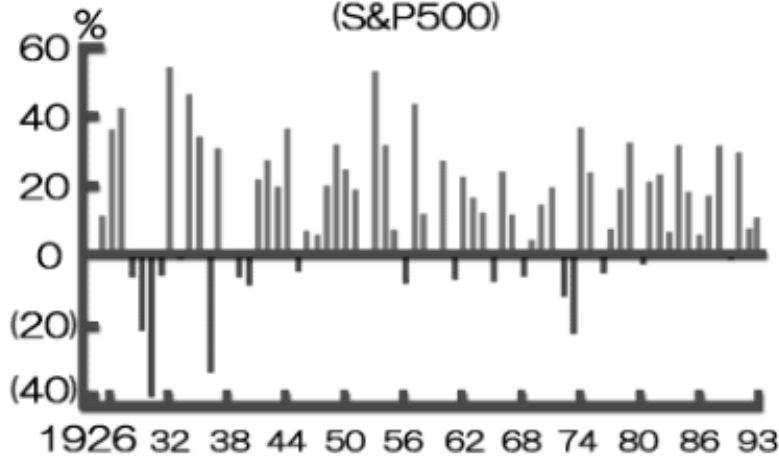
これは、株式市場という「いちば」に参加しているのが、他ならぬ人間であり、株価は、その人間の短期的な「感情」の影響を受けるからです。

しかし、長い目で見ると、株価は企業の利益成長を反映します。株式市場は、たくさんの企業の集合体ですから、

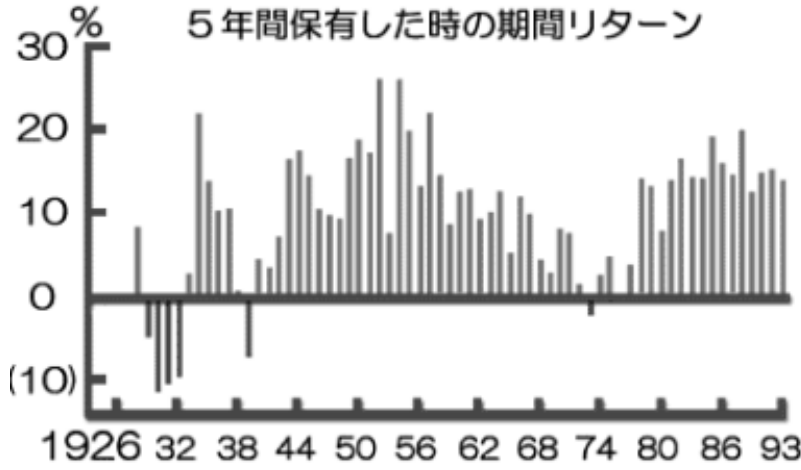
その国の経済が今後も成長を続けるならば、株式市場もそれに見合った成長をする、と考えられます。

下のグラフは、アメリカの株式市場の指数である S & P 5 0 0 の、1926年から1993年までの、1年ごと、5年ごと、10年ごと、15年ごとの平均収益率を表しています。

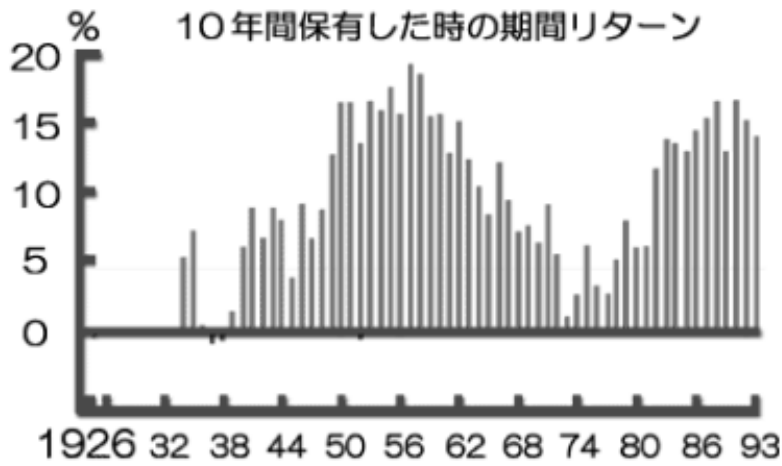
各年毎のリターン
(S&P500)

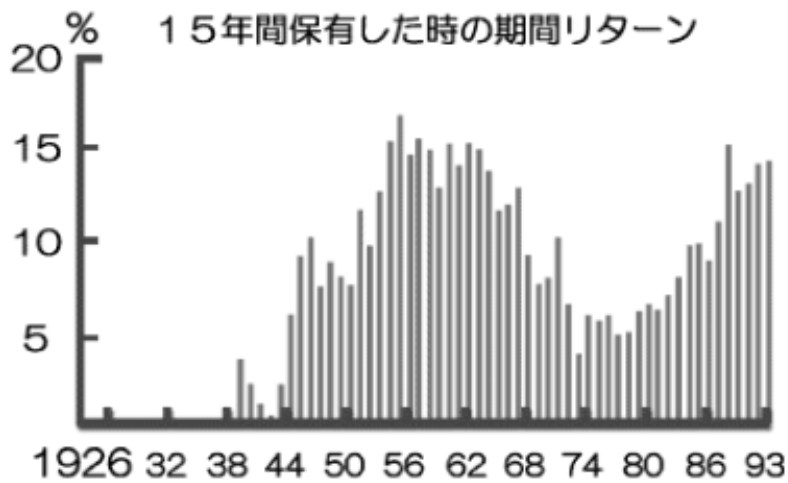


5年間保有した時の期間リターン



10年間保有した時の期間リターン





グラフを見ると、1年ごとの収益率（リターン）には、大きなブレがあることがわかります。しかし、5年平均、10年平均となるに従って、期間の平均リターンは安定化していきます。

（これを **平均への回帰** といいます）

上のグラフから、株式を用いて運用を行う場合は、買って、持ち続けること、つまり **長期保有** することが大切だ、ということがわかりいただけると思います。（10年をひとつの目安にしてください）

お金を育てる世界では、リスクとは、金融商品の価格の振れ幅であり、通常、「標準偏差」を用いて表します。

リターンとは、金融商品の収益率であり、通常、期待収益率（期待リターン）を用いて表します。

リスクとリターンは 正比例の関係 にあります。

銀行預金は元本保証をうたっており、リスクは小さいですが、その分期待できるリターンも小さくなります。

逆に株式は、リスクは大きいですが、その分期待リターンも高くなります。